

「ミャンマー・シャン州北部地域での麻薬撲滅支援」
—蕎麦博士・氏原暉男さんの足跡—

国際協力機構農村開発部

鈴木文彦

今回、講演させて頂くのはミャンマーのシャン州北部地域（旧北シャン州）での麻薬撲滅支援のお話です。シャン州北部地域は中国雲南省と接し、標高 1,000～2,000m の山岳地形、ミャンマー中央部から遠く離れ、様々な少数民族がモザイク状に分布する地域で、かつ反政府少数民族グループにより長年にわたり麻薬の原料であるケシが栽培されてきました。

ミャンマー政府は 1989 年からこれらグループとの停戦・和平合意の締結を行い、同時に麻薬撲滅へ同意を取り付けて、更には 1999 年から「麻薬撲滅 15 カ年計画」を開始。日本はミャンマー政府の取組みを受けて、1997 年からケシに代わる代替作物栽培支援として、信州大学氏原教授を中心にソバプロジェクトを開始しました。

こうした中、ケシ撲滅は着実に進展を示してきたが、ラオカイ県（旧コーカン特別区）ではケシ栽培停止に伴う急激な貧困状況が発生したため、日本は 2005 年からラオカイ県に協力を集中させた「コーカン特別区麻薬対策・貧困削減プロジェクトを立ち上げ、緊急支援を行うとともに、中長期的支援としてケシ撲滅後の貧困削減支援活動を実施。2011 年 3 月のプロジェクト終了までに一定の成果を挙げました。

しかしながら、ラオカイ県以外のシャン州北部地域は、ケシ栽培が撲滅に近いレベルまで達した後、近年は増加の兆しを示しています。同地域の農家の多くは、農地が小さく、かつ適切な営農技術が普及していないため生産性が低く、貧困の悪循環に陥っています。このまま貧困が継続すれば、ケシ栽培の再開と増加につながる可能性があり、さらには地域経済格差の拡がりや少数民族地域と中央との対立を助長する危険を孕んでいます。こうした懸念から、2013 年前半より、旧ケシ栽培地域の食糧生産の向上と生計向上のための新しいプロジェクトを実施します。

私自身は 2012 年 5 月に 2 週間現地入りしただけですので、現地経験の豊富な元コーカン特別区麻薬対策・貧困削減プロジェクト専門家 吉田直子氏の協力をいただき、お話をします。具体的には、調査時の写真で現地の今をお見せしつつ、併せて過去の写真もお見せして、シャン州北部地域の実情、日本による支援の歴史、ケシ撲滅の難しさについて、紹介したいと思います。

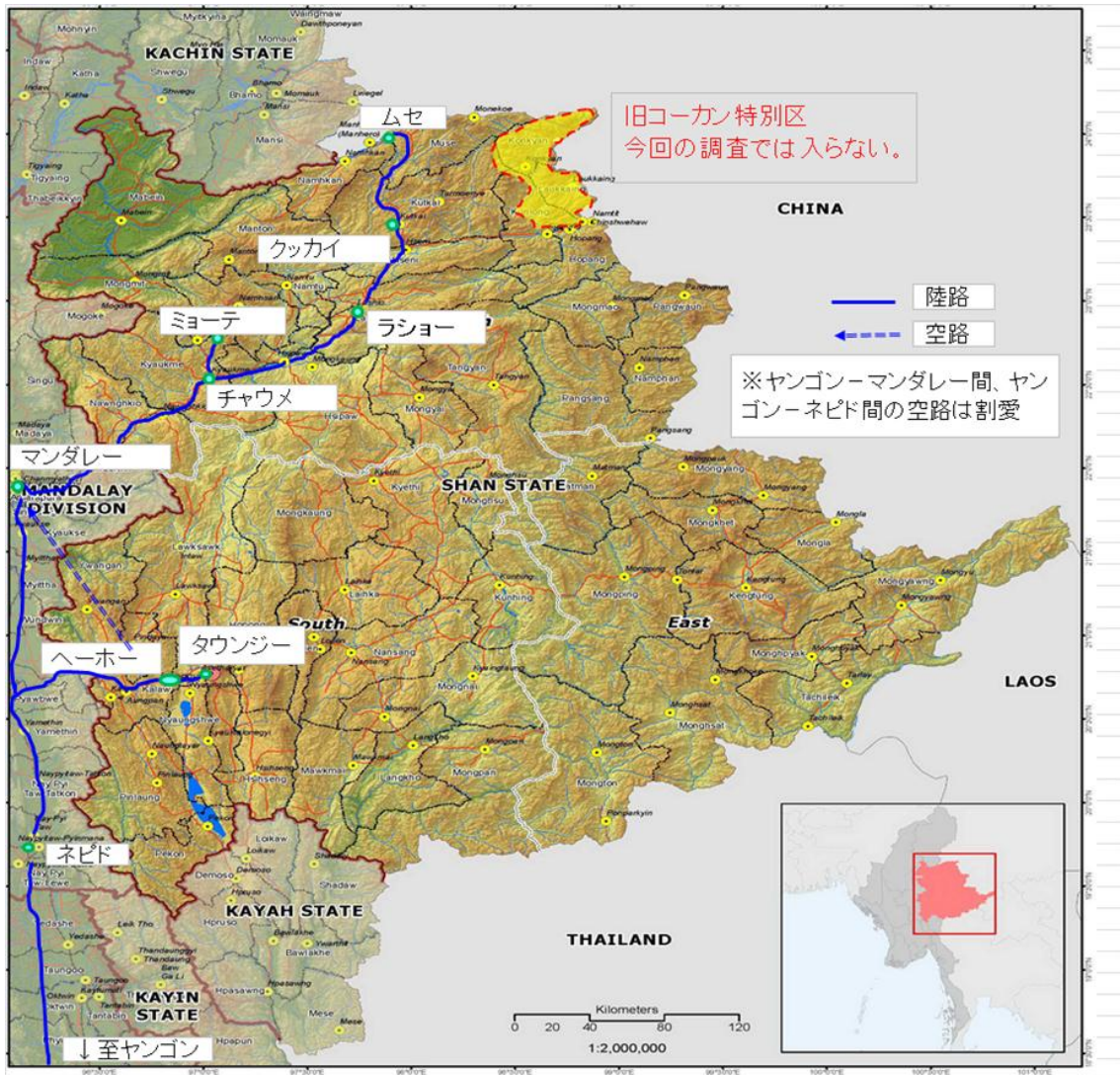


図1 シャン州北部地域の地図

シヤン州北部地域における麻薬撲滅支援の歴史

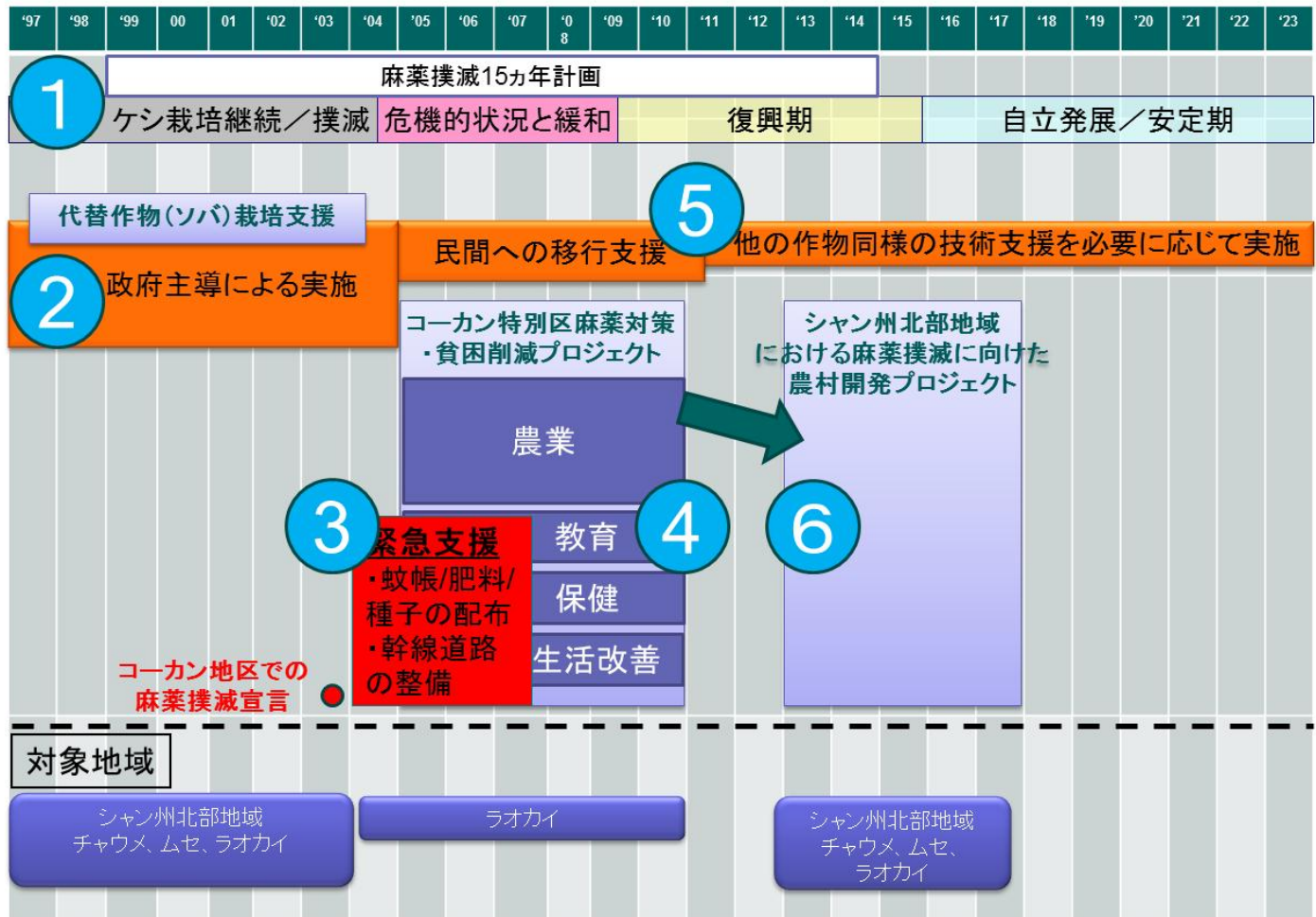


図2 シヤン州北部地域における麻薬撲滅支援の歴史